

諭鶴羽山 登山道地図



諭鶴羽古道ご案内

諭鶴羽古道は、古く平安の頃より、修験者達の修行の道として、祈りを捧げる信仰の道として、また、地域の人々の生活の道として活躍してきました。諭鶴羽神社を起点として、灘黒岩へ下る表参道と、諭鶴羽ダム、牛内ダムへ下る裏参道があります。この諭鶴羽古道は、南あわじ市文化財『史跡』に指定されており、建武元年銘町石が発見されています。表参道には享保銘町石が、裏参道には寛保銘町石が建っています。

建武元年銘在銘町石

大正12年境内東の森より偶然発見されました。「建武元年」(1334年)の紀年銘があり、在銘町石としては兵庫県下最古、国内9番目の古さを誇り、淡路島内の石造遺品としても最古のものです。その後の調査でさらに6基発見され、境内におさめられています。

享保二十年(1735)銘町石：表参道

表参道に建っています。途中、二丁目付近に薬師堂跡、五丁目町石の柴折り地蔵(一枝の柴を手向け道中の安全を祈願した)、菊か店跡(昔お菊さんが営んでいた店)、坊さま角、行場の滝などがあります。

寛保四年(1744)銘町石：裏参道

裏参道に建っています。山頂付近は車道で寸断されているために、現在では山頂を抜ける御旅道のコースを紹介しています。諭鶴羽ダム、牛内ダムの両方から古道に入ることができ、神倉神社の坂を上ると、なだらかな尾根づたいが続きます。

◎諭鶴羽山：標高607.9m 淡路最高峰(一等三角点)。境内神域は瀬戸内海国立公園特別地域。社叢林の『アカガシ群落』は兵庫県指定天然記念物。『親子杉』は兵庫の巨樹巨木に選定。近畿百名山、関西百名山選定。ふるさと兵庫50山選定。ひょうごの森百選々定。古くより修験道の聖地として信仰を集めてきました。登山道ハイキングコースとして『諭鶴羽古道コース』『近畿自然歩道コース』があります。

ホームページ <http://www.h3.dion.ne.jp/~yuzuruha>

* 諭鶴羽古道に関するお問い合わせは
諭鶴羽神社社務所まで

TEL 0799-56-0315

題字 山形 久美子

制作 諭鶴羽古道を守る会



車で20～25分で登山口への看板が見えます。この左手後ろに店舗があります。ここを左折して登っていきます。駐車は、このスペースに停めて下さい。



左の看板の拡大図です。「灘黒岩」というバス停になっています。



登山口にある店舗の正面です。この前を通って登っていきます。



この道を進みます。



道が二つに分かれており、直進すると「論鶴羽古道」、右折すると「近畿自然歩道」へ行きます。左に見える電柱に道案内があります。



道案内です。以下、先に「論鶴羽古道」の説明をします。



「論鶴羽古道」ですが、先ほどの分かれ道を直進し、川沿いに上ると小さな滝が見えてきます。その横の急斜面を登っていきます。



店舗から歩いて約17分でシカよけネットが目に入ります。



この奥を進むと地図で「滑落注意」となっているところへ出ます。幅1mもない土の道です。右側の奥は、むき出しの急斜面になっていて、危険です。

以降、ひたすら山の中を進んでいくことになります。周囲や道の状況を見て判断し、十分注意したうえで進まなければなりません。したがって、必ず実際に歩いて下見をしてください。道のわかる人が複数人必要です。ところどころに案内標識や地蔵などがありますので、それらを目印として進みます。特に中腹は勾配もきつく、道も整備されていないので歩きづらく、体力を大きく消耗します。雨が降った場合、山の雨水の通り道になっているのではないと思われる道が続き、道には拳よりも大きな石が大量に転がっています。右は神社から見た古道の出口です。ここまで来るのに休み時間を入れずに1時間程度かかりますので、休憩を入れると1時間半～2時間弱かかるとされる健脚向きコースです。

神社にはトイレはありますが、自動販売機らしきものは見当たりません。山頂はスペースが狭いので、昼食を食べるのなら神社ということになります。神社を使用する際は事前に連絡をして下さい。論鶴羽神社社務所の連絡先は0799-56-0315、090-3990-5334です。

ちなみに、弁当の配達には神社までは可能です。





先ほどの分かれ道を右へ上がると近畿自然歩道のほうから登ることになります。



道なりに舗装路を10分弱登っていくと、写真のような案内が出てきますので、ここを右折します。



左の看板から1~2分で寺が見えてきます。ここを右のほうへ登っていきます。ガードレールがない場所もあり、注意して下さい。



ビニールハウスの向こうに分岐の道があり、案内標識が立っています。ここを左へ登っていきます。



シカよけネットです。(登山口からは約40分)



ひたすら山沿いに登っていくと、コンクリートの道から土の道に変わります。(登山口から約60分)



車の通る大きな道に出ています。ここを左折します。(登山口から約80分)



しばらく進むと看板があります。



この分岐を左へ進むと神社です。右へ進むと、神社を経由せずに山頂のほうへ向かうことになります。(登山口から約100分)

近畿自然歩道を、山沿いに登って山頂を目指すルートもあります。(距離は古道の約3倍あります。)この斜面では農家がミカンやビワを栽培しており、その作業の関係で、時々軽トラックが通ります。土の道も最後のほうにありますが、基本的には軽自動車を通れる道なので、古道に比べてはるかに歩きやすい道です。

また、古道はひたすら暗い山の中を進むのに対し、近畿自然歩道は、ところどころ開けたところから海が見えます。距離が長いので、体力の差により、到着時間にも差が出てくるかもしれません。掲載している時間は休み時間を入れていませんので、2時間弱ぐらいかかるかもしれません。こちらも実際に登って下見することをお勧めします。

古道については、どちらかというと「修行」という雰囲気があります。達成感が大きいと思われませんが、その分、危険箇所もあります。その点近畿自然歩道は安全なルートと言えます。

神社を越えると、またしばらく登りになります。NTTの電波塔があり、それを越えて進むと山頂です。

そこからは、下っていくことになります。それほど迷うことはないかと思います。時間的には、下りですので1時間ぐらいで下山できます。



神倉神社です。



最後のほうに、牛内ダムと諭鶴羽ダムへの分岐があります。右へ下りると諭鶴羽ダム方面です。

諭鶴羽ダムへの道は、距離的には短いですが、勾配が少し急です。雨天時には足元がぬかるむなど心配されます。「近畿自然歩道」は直進(牛内ダム方面)がルートとなっています。しかし、大型バスで迎えに行くことを考えた場合、牛内ダムまでの道は大型バスが通行するには狭く、また、ダム周辺も大型バスが通行できない、駐車できない状況です。

諭鶴羽ダムについても大型バスは周回できませんが、その手前であれば牛内ダムよりも周回しやすいです。

バスでの迎えになるということならば、諭鶴羽ダム周辺を実際に見ておいてください。



諭鶴羽ダム方面に降りてくると、ダムが見えてきます。



諭鶴羽ダムへの出口を逆方向から見たところでは、



牛内ダムへの出口を逆方向から見たところでは、

「諭鶴羽山 登山道地図」は、諭鶴羽神社のHPからダウンロードしたものです。南あわじ市のHPIにある観光案内からでもリンクされていますので、必要であればそこからダウンロードしてください。

<http://www.city.minamiawaji.hyogo.jp/index/page/cccc5a8a1ae1e411efca34a993a5fbeb/>

上記の写真を撮影した灘海岸側の入り口は、○数字の「⑥惣川」の下にある「黒岩」というところを入り口としています。